

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2021

課題番号：16K02369

研究課題名（和文）万里集九『梅花無尽蔵』伝本研究

研究課題名（英文）Extant Manuscript Research on Baika Mujinzou by Banri Shuuku

研究代表者

中尾 健一郎（NAKAO, KENICHIRO）

熊本大学・大学院人文社会科学研究部（文）・教授

研究者番号：30511662

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：室町時代後期の還俗僧・万里集九は、唐詩の選集である『三体詩』や北宋の蘇軾及び黄庭堅の詩の注釈者として知られる。その詩文集『梅花無尽蔵』は紀行詩を多く含み、文学方面のみならず、歴史資料としても甚だ重要である。しかるに続群書類従本が刊行されるまで活字に起こされておらず、しかも複数ある写本についても十分に調査されているわけではなかった。

本研究では、主に先行研究で殆どふれられていなかった七巻本を調査し、その伝本系統を明らかにすることを試みた。また、『梅花無尽蔵』と江戸時代の学術との関係についても考察し、『江戸名所図会』に基づいた写本を特定するなど、受容史研究においても成果を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、旧鈔本を手がかりとしながら『梅花無尽蔵』諸本を調査し、七巻本の系統を明らかにした。多くの新たな知見を得たが、特に現存する最古の七巻本である杏雨書屋蔵本、二番目に古い蓬左文庫蔵本、およびこれと同じ系統に属する松ヶ岡文庫蔵本に関する研究は、斯界への貢献が大きなものである。また、『梅花無尽蔵』が一部の蒐集家に死蔵されていたわけではなく、江戸の地誌の成立に寄与したものがあつたことを明らかにした。就中、榊原芳野旧蔵『梅花無尽蔵』が『江戸名所図会』の編纂に用いられたこと、塙保己一旧蔵『梅花無尽蔵』が勝海舟の『有に帰し、府城沿革』の編纂に用いられたことは、従来指摘がなかったことに属する。

研究成果の概要（英文）：Banri Shuuku, a monk of the late Muromachi period who reverted to secular life, is known for annotating the Tang poetry anthology, "Santashi," as well as poems by Su Shi and Huang Tingjian of the Northern dynasty. His poetry collection, "Baika Mujinzou," includes numerous travel poems, and is significant not only from the aspect of literature but also as a historical material. Nonetheless, neither had it been printed until the publication of the Gunshoruiju nor had its multiple copies been sufficiently studied.

This research focused on a seven-volume work that had barely been examined in previous research and attempted to clarify the lineage of the extant manuscript. The research also considered the relationship between "Baika Mujinzou" and Edo period academia, and was able to obtain results in the field of reception history research, such as designating copies based on the "Edo Meisho Zue."

研究分野：日本漢文学

キーワード：梅花無尽蔵

## 1. 研究開始当初の背景

万里集九の『梅花無尽蔵』は、中川徳之助氏、玉村竹二氏、市木武雄氏の諸先学によってその伝本や編纂、万里の人生との関わりを中心に研究されてきた。しかし、玉村氏による『万里集九集』(『五山文学新集』第六巻所収、東京大学出版会)およびその解題は、すべての七巻本に調査が及んでいるわけではなかった。市木氏の『梅花無尽蔵注釈』(続群書類従完成会)も続群書類従活字本を底本とし、底本の不完全な部分を東京大学史料編纂所蔵七巻八冊本(以下、「東大本」と略記)を底本とする玉村氏の著書によって補ったものであり、玉村氏が取りあげていない諸本については閑却されている。中川氏は著書『万里集九』(吉川弘文館)と氏の博士論文によって東大本、続群書類従本以外の写本に目を配っているが、「梅花無尽蔵諸本対照表」に取りあげられている諸本を見る限り、足本の七巻本を網羅できているわけではない。

『梅花無尽蔵』の成立過程については、中川氏の研究によれば、いくつかの草稿が明応年間に入ってから現在の七巻本の体裁に整えられたと考えられる。報告者は、国立歴史民俗博物館博物館が所蔵する二種類の『梅花無尽蔵摘要』を調査し、七巻の体裁が当初は詩・頌・雑文の三部構成であったことを知り得ていたこともあり、七巻の体裁をとらない古鈔本を調査すれば、より詳細な成立過程を明らかにすることができ、室町時代の五山僧の詩文集がいかにして形成され、またこれらを筆写した近世の知識人層における五山文学の受容の在り方の一端を解明できるのではないかと見込んでいた。

## 2. 研究の目的

『梅花無尽蔵』の伝本系統を明らかにすることを目的とする。主に七巻本を調査対象とし、二巻以上を欠く写本、たとえば内閣文庫蔵二冊本(巻一、巻二のみ存)や無窮会神習文庫蔵三冊本(巻一、巻二、巻三上のみ存)および体裁不明の旧鈔本を調査し、玉村竹二氏の「万里集九集解題」を補完し、特に七巻本については東大本と続群書類従活字本のいずれの系統に属するかを調査する。

## 3. 研究の方法

玉村竹二氏の「万里集九集解題」において、未調査の写本あるいは調査が十分に及んでいない写本を中心に、『国書総目録』に記載されている『梅花無尽蔵』諸本を調査し、諸本の継承関係を考察する。特に名古屋市蓬左文庫蔵本(以下、「蓬左本」と略記)、松ヶ岡文庫蔵本(以下、「松ヶ岡本」と略記)、東京都公文書館蔵四冊本、名古屋市鶴舞図書館蔵六冊本、旧水戸藩彰考館蔵三冊本は七巻本の体裁を取る可能性が高いため、重点的に調査を行い、体裁不明の旧鈔本の調査も平行して実施する。

## 4. 研究成果

### (1) 松ヶ岡本系統の分析および『梅花無尽蔵』七巻本の伝本系統の解明

『梅花無尽蔵』諸本は、『国書総目録』に記載されているが、明らかに七巻本と目される名古屋市鶴舞図書館蔵六冊本、また七巻本の可能性があった旧水戸藩彰考館蔵三冊本は戦災により焼失していることが調査の過程で判明した。また、『国書総目録』から抜け落ちているものに、杏雨書屋蔵七巻三冊本(もとは七巻六冊本、以下、「杏雨本」と略記)が存在することに気づいた。

結論から言えば、文字の異同等の調査を行った結果、七巻本は、大きくは杏雨本・東大本のグループと松ヶ岡本・蓬左本のグループに大別される。前者は、巻七の巻尾と巻四所収「春岳崇公記室聯句和并叙」中の「蚊有雷霆怒」以下三句を欠いていないことを主要な特徴とする。後者は前述の杏雨本・東大本が備えている部分に脱落があり、かつ七巻六冊の形態を有する。

前者の諸本には、杏雨本、東大本、国立国会図書館蔵土井鶚軒旧蔵本、国立国会図書館蔵榊原芳野旧蔵本、早稲田大学図書館蔵本があり、東大本以下の四種には巻四に特徴的な錯簡が見られ、同じ系統の祖本に基づいたと見られる。

一方、後者の二種の写本は、七巻六冊本の体裁をとるものの、蓬左本は巻一・巻二と巻三以降の五巻との取り合わせ本であり、厳密には松ヶ岡本全七巻と蓬左本の巻三から巻七までの五巻分が系統を同じくする。七巻四冊の形態をとる東京大学所蔵の謄写本(以下、「東大四冊本」と略記)も巻七の巻尾と巻四所収「春岳崇公記室聯句和并叙」中の三句を欠いており、本文は松ヶ岡本・蓬左本と同じ系統に属する。また東京都立公文書館所蔵の七巻四冊本は、東大四冊本を謄写したものであることが調査の結果判明した。

なお、研究計画を立てた当初、七巻本の伝本系統は東大本と続群書類従活字本の二つの系統に分けられるとの見とおしを持っていた。しかし、続群書類従活字本は明治38(1905)年に経済雑誌社から刊行された初版本の大部分の脱字と補訂部分が東大四冊本と一致し、また東大四冊本と近い系統にある松ヶ岡本は塙保己一の和学講談所旧蔵書であり、且つ謄写本である東大四冊本よりも由来が古いため、系統の名称に続群書類従活字本を立てることは適切ではなかった。系統名としては「松ヶ岡本系」と称するのが妥当である。

上記の伝本系統については、「杏雨書屋蔵『梅花無尽蔵』について：現存する最古の七巻本」（『熊本大学教育学部紀要』70、2021年）の論末に系統図を掲載した。

#### （2）玉村竹二「万里集九集解題」の補訂

杏雨本を再発見し、蓬左文庫蔵三巻三冊本を発見し、肥前島原松平文庫蔵本・早稲田大学図書館蔵本について明らかにするなど、玉村竹二氏が「万里集九集解題」にふれなかった諸写本について明らかにした。また玉村氏の解題に言及されている続群書類従活字本が、明治38（1905）年に経済雑誌社から刊行された初版本ではなく、続群書類従完成会により発行された後続の補訂本であること、補訂本を使用した結果、東大四冊本と経済雑誌社の初版本の間に補訂本よりも密接な関係があることを見逃していたことを指摘した。玉村氏は続群書類従活字本が東大四冊本もしくはその親本を「底本にしたのではないかと思はれる節がある」（「解題」1177頁）と述べているが、経済雑誌社の初版本を確認していたなら、両者の間に極めて密接な関係があることを見て取ったはずである。少なくとも東大四冊本の親本はさらに文字の脱落が多かったはずであるため、これは続群書類従活字本の底本にはなりえない。

#### （3）『梅花無尽蔵』の江戸時代以降の学術との関わりとの解明

『梅花無尽蔵』は地誌や地方史に引用されることがあるが、とりわけ顕著なものは齋藤長秋編、齋藤県磨・齋藤月岑校『江戸名所図会』であろう。『江戸名所図会』には少ない量の万里集九の詩が引用されているが、その基づいた写本については明らかにされていなかった。報告者は『江戸名所図会』が引用する『梅花無尽蔵』巻四所収「読円悟禅師梅花詩」に錯簡に基づく誤りがあることに気づき、東大本系統の七巻本を調査した結果、榊原芳野旧蔵本の蔵書印中に、齋藤県磨の蔵書印「莞齋」を認めた。念のために『江戸名所図会』と東大本系『梅花無尽蔵』の詩本文を調査した結果、『江戸名所図会』が基づいた『梅花無尽蔵』は齋藤県磨の旧蔵書でもある榊原芳野旧蔵書であることを明らかにした。

松ヶ岡本系の『梅花無尽蔵』については、蓬左本は文献に引用された形跡は見られないが、松ヶ岡本の蔵書印を調べた結果、この写本が塙保己一の和学講談所から流出して幕臣・勝海舟の蔵書となったこと、勝海舟が明治政府の依頼を受けて『府城沿革』（江戸城の沿革と江戸の風俗等の記録、未刊、国立国会図書館蔵）の編纂に活用していたことが判明した。

東大四冊本を明治43年（1910）に謄写した東京都公文書館蔵七巻四冊本は、『東京市史稿』の編纂に資したと見られるが、榊原芳野旧蔵本にしても松ヶ岡本にしても、江戸・東京の地誌を編纂する歴史資料として重視されていたことが分かり、これらの写本の明治以前の学術との関わりについて明らかにできたと自負する。

#### （4）『梅花無尽蔵』旧鈔本に関する研究と今後の展開

『梅花無尽蔵』七巻本の伝本系統は明らかにできたが、国立歴史民俗博物館が蔵する2種類の『梅花無尽蔵摘要』、肥前島原松平文庫本、妙心寺龍華院本、京都大学蔵『五山禅僧詩文集』、大東急記念文庫本をはじめとする旧鈔本については、調査は行ったものの、杏雨本の存在に気づいていなかったこともあって、系統づけることができなかった。旧鈔本には上記以外のものも現存しており、写本間の継承関係は未詳である。また蓬左本の調査を行った際に気づいたが、江戸時代の早い時期から巻一・巻二のみ、あるいは巻一・巻二・巻三のみで伝写された写本もあったようであり、これらの伝本も未詳である。巻が分けられていない旧鈔本、端本の伝本研究については、今後の課題としたい。現在のところ、大東急記念文庫本を除く旧鈔本は『梅花無尽蔵』七巻本が成立する途上で作成された万里集九の草稿に由来するものであり、巻が分けられた端本は七巻本の成立後にそれぞれ伝写されたものであると見ている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 中尾 健一郎	4. 巻 70
2. 論文標題 杏雨書屋蔵『梅花無尽蔵』について：現存する最古の七巻本	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 熊本大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 273-284
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中尾 健一郎	4. 巻 58
2. 論文標題 蓬左文庫蔵『梅花無尽蔵』七巻本について：併せて松ヶ岡本・続群書類従活字本との関係について論ず	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語国文 研究と教育	6. 最初と最後の頁 44-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中尾 健一郎	4. 巻 14
2. 論文標題 石井鶴山と藪孤山：肥前佐賀藩儒と肥後熊本藩儒の交流	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 43-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中尾 健一郎	4. 巻 32
2. 論文標題 松ヶ岡文庫蔵『梅花無尽蔵』と勝海舟	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公益財団法人松ヶ岡文庫研究年報	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾 健一郎	4. 巻 67
2. 論文標題 小学校国語の副教材としての斎藤隆介「半日村」について(上) - 故事成語「愚公移山」との比較 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 熊本大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 268-274
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中尾 健一郎	4. 巻 57
2. 論文標題 小学校国語の副教材としての斎藤隆介「半日村」について(下) - 毛沢東「愚公移山」との関係 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語国文 研究と教育	6. 最初と最後の頁 34-44
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中尾 健一郎	4. 巻 66
2. 論文標題 早稲田大学図書館蔵『梅花無尽蔵』について 国書刊行会原稿を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 熊本大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 405-412
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中尾 健一郎	4. 巻 56
2. 論文標題 『江戸名所図会』における『梅花無尽蔵』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語国文 研究と教育	6. 最初と最後の頁 24-35
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中尾 健一郎	4. 巻 増刊号
2. 論文標題 中学校・高等学校国語教材としての熊本藩儒秋山玉山の漢詩：「太宰府調菅公祠」二首を例として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 熊本大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 103-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中尾 健一郎	4. 巻 439
2. 論文標題 漢詩の奥義をわかりやすく 【書評】 宇野直人著『漢詩名作集成 中華編』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東方	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾 健一郎	4. 巻 65
2. 論文標題 肥前島原松平文庫蔵『梅花無尽蔵抜書』について 続類従本・蓬左本との関係を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 熊本大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 9 - 16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中尾 健一郎
2. 発表標題 『梅花無尽蔵』と勝海舟
3. 学会等名 熊本大学教育学部国文学会 平成29年度大会
4. 発表年 2017年

## 〔図書〕 計4件

1. 著者名 中尾 健一郎、中尾 友香梨	4. 発行年 2021年
2. 出版社 公益財団法人 孔子の里	5. 総ページ数 250
3. 書名 石井鶴山先生遺稿	

1. 著者名 中尾 友香梨、高橋 研一、中尾 健一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 佐賀大学地域学歴史文化研究センター	5. 総ページ数 76頁
3. 書名 蓮池藩先賢詩文集	

1. 著者名 中尾 友香梨、高橋 研一、中尾 健一郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 佐賀大学地域学歴史文化研究センター	5. 総ページ数 131
3. 書名 鹿島文学 - 甦る地域の文化遺産 -	

1. 著者名 下定雅弘, 松原朗, 小川恒男, 佐藤正光, 竹村則之, 橘英範, 中尾健一郎, 二宮俊博, 森岡ゆかり, 諸田龍美	4. 発行年 2016年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 672 (担当箇所、216-309頁)
3. 書名 杜甫全詩訳注(三)	

## 〔産業財産権〕

〔その他〕

熊本大学学術リポジトリ  
<http://reposit.lib.kumamoto-u.ac.jp/handle/2298/35963?mode=full&metadispmode=lang>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------